

《2005年8月例会報告》

【日 時】2005年8月26日（金）19:00～21:00（その後ルン～2:00頃）

【会 場】筑波大学附属高校体育館1Fミーティングルーム

【参加者（会員）】浅野智嗣（エルゴラツ） 加納樹里（中央大学） 岸卓巨（DUOリーグボラ
ンティア／中央大学） 嵯峨寿（筑波大学） 鈴木崇正（NECメディアプロダクツ） 徳田仁（株
セリエ） 高橋正紀（岐阜経済大学） 名方幸彦（文京教育トラスト） 中塚義実（筑波大学附属
高校） 本多克己（株）クラブハウス） 松岡耕自（立命館大学体育会サッカー部コーチ） 宮崎
雄司（サッカーマニア編集長） 室田真人（NPO法人九曜クラブ／中央大学）

【参加者（未会員）】江川純子（JFA代表チーム部）

【2次会のみ参加者】村林裕（FC東京） 野田直広（富士電機／ゲーム分析に関心あり）

【テーマ】公開シンポジウム2005検討会

【報告書作成者】室田真人 岸卓巨

注）参加者は、所属や肩書きを離れた個人の責任でこの会に参加しています。括弧内の肩書きはあくまでもコミュニケーションを促進するため便宜的に書き記したものであり、参加者の立場を規定するものではありません。

公開シンポジウム2005検討会

本多克己（株）クラブハウス）他

<目次>

- I. 100年構想シンポジウム「ドイツに学ぶ、日本のサッカー」：本多克己
- II. 「公開シンポジウム2005」にクラマー氏を呼ぶことへの提案：本多克己
- III. ディスカッションの要約

I. 100年構想シンポジウム「ドイツに学ぶ、日本のサッカー」

■100年構想シンポジウム「ドイツに学ぶ、日本のサッカー」

ドイツ文化センター（ゲーテ・インスティトゥート）の主催で、クラマー氏を招聘し、11月13日（日）にJリーグや朝日新聞との共催でシンポジウムを予定している。賀川浩氏がクラマー氏との連絡にあたっていることもあり、株クラブハウスが運営面で協力している。

現段階での概要は次のとおり。「Jリーグ百年構想」をメインテーマとしたシンポジウムになる予定。

記

日 程 2005年11月13日（日）

会 場 新宿パークタワー

構成案 ドイツ・デュイスブルグのスポーツシュレーを目の当たりにした川淵前Jリーグチェアマンの体験からJリーグの構想が生まれたこと、「日本サッカーの父」クラマー氏の提唱が、日本サッカーリーグ発足につながったことをはじめ、日本のサッカーはドイツから多くの影響を受けてきた。100年構想に向けて、「日本サッカーの父」クラマー

氏を中心に語る。

キャスティング案 デットマーレ・クラマー氏 ・ 賀川浩氏 (サッカーライター)
川淵三郎氏 (日本サッカー協会キャプテン)
鈴木昌氏 (Jリーグチェアマン) ・ 潮智史氏 (朝日新聞) など

II. クラマー氏を囲んだ「公開シンポジウム2005」の提案

■「公開シンポジウム2005」の確認と案内

5月の総会時に、本年度のシンポジウムについて議論した。今年が「日本におけるドイツ年」であること、来年ドイツでワールドカップがあること、デットマーレ・クラマー氏を通して日本はドイツから様々なことを学んできたということを踏まえて、「ドイツから学ぶこと(仮題)」といったテーマで11月頃できないかという話になった。

ちょうどドイツ文化センター(ゲーテ・インスティトゥート)の主催でクラマー氏が来日し、11月13日(日)に、Jリーグや朝日新聞との共催でシンポジウムが予定されている。その前後であれば、サロン2002主催、「ゲーテ・インスティトゥート」との共催で、クラマー氏を交えた何らかのシンポジウムが可能であるということが、本多氏から紹介された。

そこでサロン2002として、クラマー氏を交えてのシンポジウムをどのような形で行うかを議論した。

III. ディスカッションの要約

以下は、未確定な事項も含め、本年度の公開シンポジウムに関する議論から出てきた案をまとめたものである。

■本年度の公開シンポジウム(案)

【日時・会場・経費負担】

11月12日(土)14:00 東京Vs. セレッソ大阪のゲーム(味の素スタジアム)終了後、17:00頃から同スタジアム内または周辺で開催というのが第一候補。11月11日(金)18:00頃にドイツ文化会館(青山一丁目)で開催するのが第二候補。または13日以降(16日が代表戦なのでここまで)。クラマー氏がいつからいつまで日本に滞在しているかは今のところ未定。

昨年の「公開シンポジウム」のデータからすると、予算が限られているという議論があった。だがいずれの場合も、会場や通訳、クラマー氏の滞在費については「ゲーテ・インスティトゥート」との交渉次第だが、「こちらの負担はないと考えてよい」(本多氏)。会場は11日・12日であれば150~200名ほど入るドイツ文化会館の会議室を無料で貸していただけることになっている。また、ゲーテ・インスティトゥートはドイツの振興なので、同時通訳については共催にすればやってくれる可能性は高い。

【概要】

現在80歳のクラマー氏から何かを引き出すには、今年が最大の(最後の)チャンスかもしれない。13日の日本サッカー協会後援のシンポジウムは表面的なことになりそうなので、ディープなことをやりたい。クラマー氏が日本を去るときの言葉、「①日本代表は毎年欧州遠征すること、②良いコーチを育成すること、③トップリーグをつくること、④芝のグラウンドを確保すること」、これがその後のサッカーの発展のもとになっている。現在は他のスポーツの協会でも、サッカー協会を見習っているところが多い。そのため、「日本サッカーの父」であると同時に、「日本スポーツの父」であるといっても過言ではない。故に、クラマー氏の存在をサッカー関係者以外にも認知してもらうことを含め、「ド

イツから学ぶこと」をもっと特化して「クラマーから学ぶこと」と考えたい。

【内容に関する議論と問題点】

- クラマー氏の意向としては、現場に関わっている若い人に対して話をしたい、とのこと。
→純粋に若手と話したいのであれば、例えば協会で若手コーチをまとめればよいのだが、サロン2002にはさまざまな人がいるので、サロンのシンポジウムとしては、それをぶつける方がよいのではないか。
- 現場（芝生の上）でやるような形はできないだろうか。
→同上。それに、80歳という年齢を考えたときに実際に行えるかどうか。クラマー氏の体調が大きく影響する（余談だが、クラマー氏は75歳まで現役で現場に立っておられた）。
- クラマー氏が残した言葉をキーワードとして質問を考えてみる。その言葉の一例として、「ボールコントロールは、次の部屋に入る鍵だ。この鍵さえあれば、サッカーというゲームは、何でもできる」、「タイムアップの笛は、次の試合へのキックオフの笛だ」、「サッカーの上達に近道はない。不断の努力だけである」、などがある。こうした40年前の言葉は、今日でもその意義を失っていないのか。それが日本の文化を反映したりしているのかを考えてみるのもおもしろいだろう。
→クラマー氏の言葉は精神論が多い。いまこそその精神論の時代ではないか。精神論の根っこにあるような人間性などについても話を聞いてみたい。
→別の視点では、クラマー氏の言葉は精神論が多いが故に、聞き手にそれを受け入れる準備がないと心には響かないだろう（今日的にはありがたみのない言葉になってしまう恐れがある）。
- クラマー氏の認知度における世代間のギャップがあるのは問題である。
→シンポジウムの前に、何らかの形でクラマー氏の紹介を行わなければならないだろう。クラマー氏を全く知らない人や名前だけしか知らないという人も多いだろうから、煮詰めていかなければならない箇所である。ドイツサッカーについては、先日、日本でも上映されたドイツ映画「ベルンの奇跡」を見せるのも一つの手である。
→今風に言えば、「クラマー・ジャパン」の話を聞いてみたい。古いから聞かないのではなく、日本サッカーを横軸だけでなく、縦軸で見えていく必要もあるだろう。クラマー氏は日本サッカーの歴史の始点となりうる人である。
- サッカーと距離を置いた関係でも議論をすることは可能だ。
→スポーツ文化の違いについて、特にメディアの扱いについて考えたい。日本は特にテレビ放送で遅れていて、メディアを脚色しすぎている。純粋にスポーツがもっているドラマ性を、メディアをつかって発信するには、どうすればよいのだろうか。
→地域スポーツクラブに関すること
→教育に関すること
→医療に関すること
→優劣がつくスポーツの中でどのようにして全体の人をやる気をだしているのか、など

【内 容】

上記のような議論を踏まえて、様々な分野で活躍するサロン会員がそれぞれの視点で「日本の現状と課題」を公表し、それについての意見をクラマー氏に求める形が良いのではということになった。それは、サッカーに特化せず、教育に関してでも、子どもの問題に関する日本とドイツの比較でも構わない。そうすることが、「世界一の“サッカー力”をつけるためにどうすればよいか」であり、「“ゆたかなくらし”をどう捉えるか」といったサロン2002の“志”とも関係するだろう。

具体的には、サロン会員が数名交替で登壇、短いプレゼンの後クラマー氏に質問し、「クラマーの教え」を引き出す形にしたい。「クラマーに聞く7つの質問（7つ出来るかどうかは分からないが）」のような感じでやっていきたいと思う。

そこで、最終的には理事会の判断とするが、まずはそれぞれの会員の関心領域から、クラマー氏に知ってもらった上でアドバイスをいただきたい「日本の現状と課題」を挙げてもらいたい。9月中旬をめどにMLに投稿していただいたものを理事会で整理し、報告・質問者を依頼し、10月例会で再度取り上げ、内容をつめていくことにする。基本的に、報告・質問者は、サロン会員とする。

また、日程やクラマー氏との調整は、本多氏が中心となり、理事会やゲーテ・インスティトゥートと懸案の事柄について話し合いを進めていく。「公開シンポジウム」本体の運営を行う事務局長はMLで募集する。

シンポジウム後には、例年通り、報告書を作成する。

【補足（本多氏より）】

9月9日現在の確認で、クラマー氏のスケジュールが10日程度とれそう、とのことですので、Jリーグのシンポジウム11月13日の翌週の19（土）、20（日）までを候補日として再検討したい。ゲーテには、この2日間の空き状況を確認中です。19日はJ2、20日はJ1の開催日となっています。

皆さんから寄せられた質問案については、クラマーさん、賀川さんにも目を通していただき、意見をもらいたいと思います。

この後は、賀川に前回サロンの内容について報告・相談しての、半ば私の私見として。

クラマーさんに話しをしてもらおうと、どんなテーマにしても深く、長い話が期待できることと、専門外の話をしてもらうのも、もったいない、ということで、やはりコーチとしてのクラマーさんから学ぶことがベストなのだろうと思います。議論のなかにあった「精神論」や、「日本人の戦い方」（技術や戦術）を軸にして語っていただければ、そのなかで、指導、環境づくりなどは自ずから含まれることになるのでは、と思います。

テーマとしては、最大でも4つかなと思いますので、コピーワークは別として「4つの提言」、「精神・戦術・技術」というような切り方でいかがでしょうか。

以上